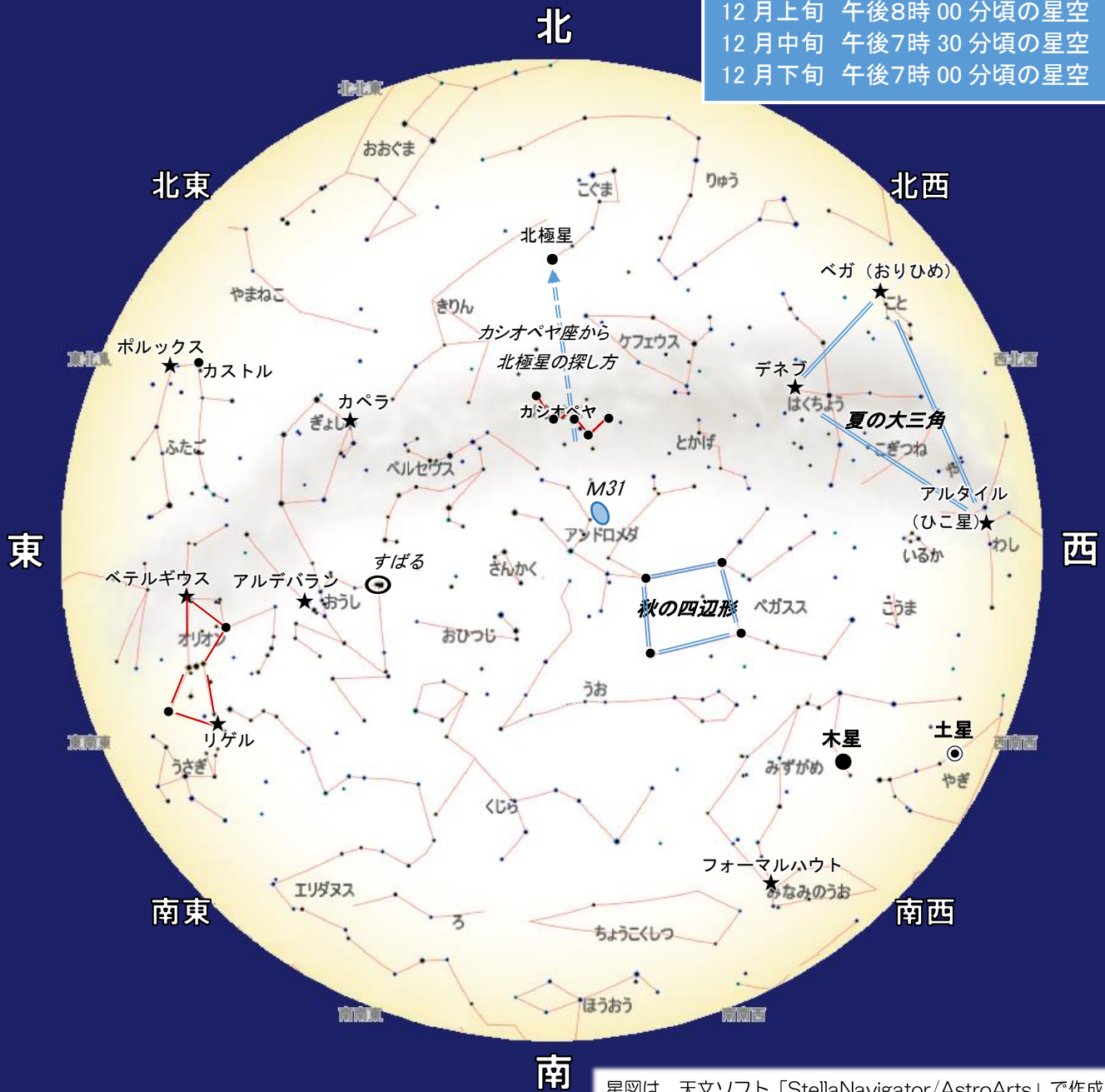


2021年 12月の星空案内



12月上旬 午後8時00分頃の星空
 12月中旬 午後7時30分頃の星空
 12月下旬 午後7時00分頃の星空



星図は、天文ソフト「StellaNavigator/AstroArts」で作成

【12月の星空 と ふたご座流星群】

22日が冬至。夜が長いので、たくさんの星座を観察できます。日没後しばらくは、まだ西の空に『夏の大三角』が見えています。天頂付近には、ペガサス座の『秋の四辺形』が見えます。東の空からは、ぎょしゃ座、おうし座、ふたご座、オリオン座など 1等星を持つ冬の星座たちが昇ってきます。

14日 16時を極大予想（天文年鑑）とする「ふたご座流星群」は三大流星群の1つです。夜半までは月明かりがありますが、15日午前2時ごろに月が沈んでからが好条件です。放射点は双子座のカストルの辺りですが、四方八方に飛ぶので空全体を見ると良いでしょう。

【よいの明星「金星」が最大光度】

春の終わりから、西空に「よいの明星」として輝いていた金星が、4日(土)に最大光度（-4.7等）となります。望遠鏡で見ると三日月形に見え、このあと急速に欠けながら、視直径が大きくなる様子を観察できます。月末からどんどん低くなり、1月9日に内合（地球から見て太陽の手前）で見えなくなります。その後、数週間たつと「明けの明星」として、夜明け前の東の空に見え始めます。